

【目次】

- 学年末の教育相談
- 市町村立学校に防災教育コーディネーターが配置されます
- 【特集】人間関係づくりプログラムのすすめ②
- 【特集】児童生徒を自転車事故から守る②

- 
- 学年末の教育相談

● 1年間の取組を振り返る

児童生徒が1年間の振り返りを行う活動も、生徒指導の3要素を意識すると効果的です。児童生徒が、各自この1年間に頑張ったことや成長したことを考え(自己存在感)、友だちと互いの成長を見つけ合い認め合う(共感的人間関係)。新しい学年で頑張りたいことを考え、目標を立てる(自己決定)。このような活動で1年間をしめくくりましょう。

● 児童生徒の成長と課題を次年度に引き継ぐ

新年度、クラス替えや担任の交替、また小1プロブレムや中1ギャップに備えて、児童生徒の指導・支援の記録を適切に引き継ぐことが大切です。教育相談コーディネーターを中心に作成した、ケース会議や支援の記録が記載された「児童生徒支援シート」を活用することで、効率的に指導・支援の情報が共有できます。

- 
- 市町村立学校に防災教育コーディネーターが配置されます

● 「防災教育コーディネーター」の役割

防災教育コーディネーターの役割は、災害時には、児童生徒の安全確保のための学校内外の情報収集と管理職の判断や指示の手助けを行います。また平常時は、教務主任や各教科主任等と連携した教科横断的な防災教育(カリキュラムマネジメント)や、実践型の避難訓練などの企画・立案・調整が主体となります。加えて、地域や保護者などと連携した防災協力体制の強化も大切な役割です。そのためには各学校における年間の取組を「学校安全計画」にきちんと反映させる必要があります。

- 
- 【特集】人間関係づくりプログラムのすすめ②

● 短時間グループアプローチの効果

高知大学の鹿嶋真弓教授は、「構成的グループ・エンカウンター」の「構成的」を指導者の技術と、教師としての考え方や姿勢だとおっしゃっています。「グループ・エンカウンター」とは、集団体験による交流をとおして他者や未知の自分と出会うことです。活動には、きちんと構成されたねらいや時間、ルールなど(理論)に基づくプログラムが必要です。さらに指導者は、教師として一番大切に思うこと(哲学)を追究し続ける姿勢、他者の良いところを見ていこうとする(人間性)をもつ必要があります。これらに支えられていれば、たとえ週1回、5分間の短時間の活動でも十分な効果をもたらすそうです。

- 
- 【特集】児童生徒を自転車事故から守る②

● 自転車ヘルメット着用推進事業がスタートします

県内の県立高校に通う自転車通学生を対象に自転車ヘルメット着用のモニターを募集します。募集は600名、1年生優先としますが2・3年生も対象となります。ヘルメット未着用時の死亡は、着用時の3.3倍(29年警察庁)にもなります。ヘルメットは指定の安全基準を満たしていれば自由なものを選べるようにしています。クラス、部活動単位等でのモニター応募も想定していますので、是非この機会に、担任や部顧問等の先生方は生徒への声かけをお願いします。(※詳細は4月に学校を通じて連絡いたします)

---

◎メルマガに対するご意見や取り上げてほしいテーマは以下から投稿してください。

<https://www.egov-oita.pref.oita.jp/8oNP6Dkf>

◎過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

<http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>

---

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課 (URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>)